

## 第 2 回ビジョン懇談会での意見に対する回答一覧

項 目	小児医療に係る父兄の負担軽減
内 容	弘前市は医療費について 6 歳まで無料だが、医療費は子育て世代には負担となっている。また、同様にワクチン接種料やぜんそくなどの慢性疾患治療費も同様である。西目屋村の水準までとは言わないが、圏域全体で小児医療に係る父兄の負担軽減を検討できないか。
回 答	<p><b>(予防接種部分)</b></p> <p>当市においては、定期接種以外の小児に対する助成は、インフルエンザ・おたふくかぜについて、実施しています。</p> <p>(弘前市の平成 27 年度実績)</p> <p>○インフルエンザ 事業費…28,955,029 円</p> <p>○おたふくかぜ 事業費… 4,540,511 円</p> <p>定期接種以外の助成については、市町村それぞれで実施しています。 (助成額等や他市町村の状況は別紙 1 参照)</p> <p>また、実施にあたっては多額の経費が必要となります。</p> <p>圏域全体での助成の統一については、実施する種類の選択や経費的な面からも、調整・実施は、非常に難しいと考えられます。</p> <p><b>(小児医療部分)</b></p> <p>子ども医療費の給付について、市が独自に負担することで、子育て世帯の経済的な負担を軽減しています。</p> <p>子ども医療費の給付などの各種子育て支援制度の拡充は、財源を確保しながら子育て支援施策全体としてバランス良く充実していく必要があることから、検討を続けてまいります。</p>
担当課	弘前市健康づくり推進課 ・ 弘前市子育て支援課

項 目	病児・病後児保育について									
内 容	病児・病後児保育について、構成市町村の利用状況を次回懇談会に示してほしい。									
回 答	<p>弘前市で実施している病児・病後児保育の利用状況については、平成 27 年度実績 (のべ利用児童数) で、</p> <table border="0"> <tr> <td>弘前市 1,660 名 (90.76%)</td> <td>黒石市 23 名 (1.26%)</td> <td>平川市 56 名 (3.06%)</td> </tr> <tr> <td>藤崎町 38 名 (2.08%)</td> <td>大鰐町 9 名 (0.49%)</td> <td>板柳町 9 名 (0.49%)</td> </tr> <tr> <td>田舎館村 19 名 (1.04%)</td> <td>西目屋村 1 名 (0.05%)</td> <td>圏域外 14 名 (0.77%)</td> </tr> </table> <p>合計 1,829 名 (100.00%) となっています。別紙 2 参照</p>	弘前市 1,660 名 (90.76%)	黒石市 23 名 (1.26%)	平川市 56 名 (3.06%)	藤崎町 38 名 (2.08%)	大鰐町 9 名 (0.49%)	板柳町 9 名 (0.49%)	田舎館村 19 名 (1.04%)	西目屋村 1 名 (0.05%)	圏域外 14 名 (0.77%)
弘前市 1,660 名 (90.76%)	黒石市 23 名 (1.26%)	平川市 56 名 (3.06%)								
藤崎町 38 名 (2.08%)	大鰐町 9 名 (0.49%)	板柳町 9 名 (0.49%)								
田舎館村 19 名 (1.04%)	西目屋村 1 名 (0.05%)	圏域外 14 名 (0.77%)								
担当課	弘前市子育て支援課									

# 資料 1

## 第 2 回ビジョン懇談会での意見に対する回答一覧

項 目	観光振興について
内 容	観光コンベンション協会においてもインバウンドに取り組んでいる。観光客の指標について、今後、国内外観光者の内訳を把握してほしい。また、事業の中で街歩きや青森に寄港するクルーズ船からの誘致、北海道新幹線関連の他市町村との連携などを盛り込む必要はないか。
回 答	<p><b>(国内外観光者の内訳の把握)</b></p> <p>現状として弘前市ほか一部の自治体で国内外の宿泊者数を把握している部分もありますが、圏域全体となると難しいのでどのようなことが可能か圏域で検討してまいりたいと思います。</p> <p><b>(クルーズ船からの誘致)</b></p> <p>平成 26 年度から弘前市インバウンド推進協議会と連携し、青森港での物産販売や観光 PR、弘前駅での観光案内を実施しております。</p> <p><b>(北海道新幹線関連の他市町村との連携)</b></p> <p>今年度、函館市で開催されたイベントでの観光 PR を実施しております。</p> <p><b>(街歩き)</b></p> <p>津軽まちあるき観光推進実行委員会（事務局：弘前観光コンベンション協会）でガイドブック作成など事業を実施しており、同実行委員会と情報共有しながら情報発信に努めてまいります。</p> <p>以上のとおりこれらの事業はすでに実施しているものもあり、事業内容に広く包括されていると考えていることから、盛り込む必要はないと考えております。</p>
担当課	国際広域観光課

項 目	空き家・空き地バンクの仕組み・取り組みについて
内 容	空き家・空き地バンクの仕組み・取り組みについて、次回懇談会に示してほしい。
回 答	別紙 3 参照
担当課	弘前市建築指導課

## 第2回ビジョン懇談会での意見に対する回答一覧

項 目	婚活支援事業について
内 容	<p>事業費が妥当かどうか分からないため、現在の事業内容・費用および追加の事業・費用の詳細を次回懇談会に示してほしい。</p> <p>婚活支援について、カップリングという目標およびその表現について再考してほしい。</p>
回 答	<p>目標については、お見合い及び婚活イベントにおいて、男女双方が交際の可能性をもって連絡先の交換に同意した件数を挙げており、誤解のない表現として「カップル成立件数」と修正したい。</p> <p><u>現在の事業内容・費用 4,794 千円</u>  (運営経費)  出愛コーディネーター人件費、印刷製本費、広告料等 4,794 千円</p> <p><u>広域化後の事業内容・費用 7,000 千円</u>  (運営経費)  出愛コーディネーター人件費、印刷製本費、広告料等 4,890 千円  清掃・光熱水費等負担金 11 千円  ※利便性の高い場所に移転することに伴い、追加したものです。  (イベント経費)  市町村における既存イベントとの連携による婚活イベント等 2,000 千円</p>
担当課	弘前市ひろさき未来戦略研究センター

項 目	重要業績評価指標 (KPI) の設定について
内 容	<p>重要業績評価指標 (KPI) の設定について、事業ごとに設定基準が統一されておらず、成果指標・行動指標が混在している。事務局側で重要業績評価指標 (KPI) の設定基準を調整してほしい。その結果を次回懇談会で示してほしい。</p>
回 答	<p>事務局において、政策分野における基本目標及び重要業績評価指標 (KPI) を再確認し、活動指標となっている指標については、連携施策担当課に再検討するよう依頼しました。その結果、別添のとおり指標を一部修正いたしました。<a href="#">別紙4</a>参照</p>
担当課	弘前市ひろさき未来戦略研究センター

## 小児の定期接種以外の助成について

市町村名	種類	対象	助成額等
弘前市	インフルエンザ	生後6か月から6歳までの未就学児	2回接種のうち1回分 無料
	おたふくかぜ	満1歳と年度内に6歳になる児	各1回 自己負担4,000円(接種費7,257円)
黒石市	————		
平川市	インフルエンザ	生後6か月児から6歳までの未就学児	2回 1,000円/回
藤崎町	おたふくかぜ	1～3歳未満	1回 5,000円/回
	B型肝炎(~3/31)	定期接種対象外の児	3回のうち残回数分 無料
板柳町	インフルエンザ	生後6か月児から6歳までの未就学児	2回 1,000円/回
大鰐町	インフルエンザ	生後6か月児から6歳までの未就学児	2回 2,500円/回
田舎館村	————		
西目屋村	ロタウイルス	・1価・・・生後6～24週までに2回 ・5価・・・生後6～32週までに3回	無料
	おたふくかぜ	満1歳と年度内に6歳になる児	無料
	インフルエンザ	満1歳～全村民	無料

1. 病児・病後児保育室の利用実績（平成27年度）

単位：人、%

実施市町 市町村別	弘 前 市				黒石市	平川市	藤崎町
	登録児童数	利用児童数	病児・病後児 のべ利用数		病後児 のべ利用数	病後児 のべ利用数	病後児 のべ利用数
			児童数	構成比			
弘前市	837	407	<b>1,660</b>	<b>90.76%</b>	0	2	0
黒石市	6	2	23	1.26%	<b>253</b>	0	0
平川市	43	23	56	3.06%	0	<b>50</b>	0
藤崎町	25	11	38	2.08%	0	0	<b>6</b>
板柳町	9	2	9	0.49%	0	0	0
大鰐町	3	2	9	0.49%	0	0	0
田舎館村	11	8	19	1.04%	0	0	0
西目屋村	3	1	1	0.05%	0	0	0
その他	12	6	14	0.77%	0	1	0
実施市町 a	837	407	1,660	90.76%	253	50	6
a 以外圏域計	100	49	<b>155</b>	<b>8.47%</b>	0	2	0
圏域外	12	6	14	0.77%	0	1	0
合 計	949	462	1,829	100.00%	253	53	6

2. 子ども医療費の推計（平成27年度実績ベース）

対象医療費（通院・入院）について、所得制限・自己負担をなくし、高校生までに給付対象を拡充した場合の扶助費は次のとおり。  
（現状：所得制限・自己負担あり。通院は就学前まで、入院は高校生までを給付対象。）

単位：円

平成27年度決算額	拡充に要する市単独費	合 計
174,291,745	<b>281,289,000</b>	455,580,745

空き家・空き地バンクの広域連携について

1 弘前市空き家・空き地バンクの運用状況（平成29年1月末現在）

（単位：件）

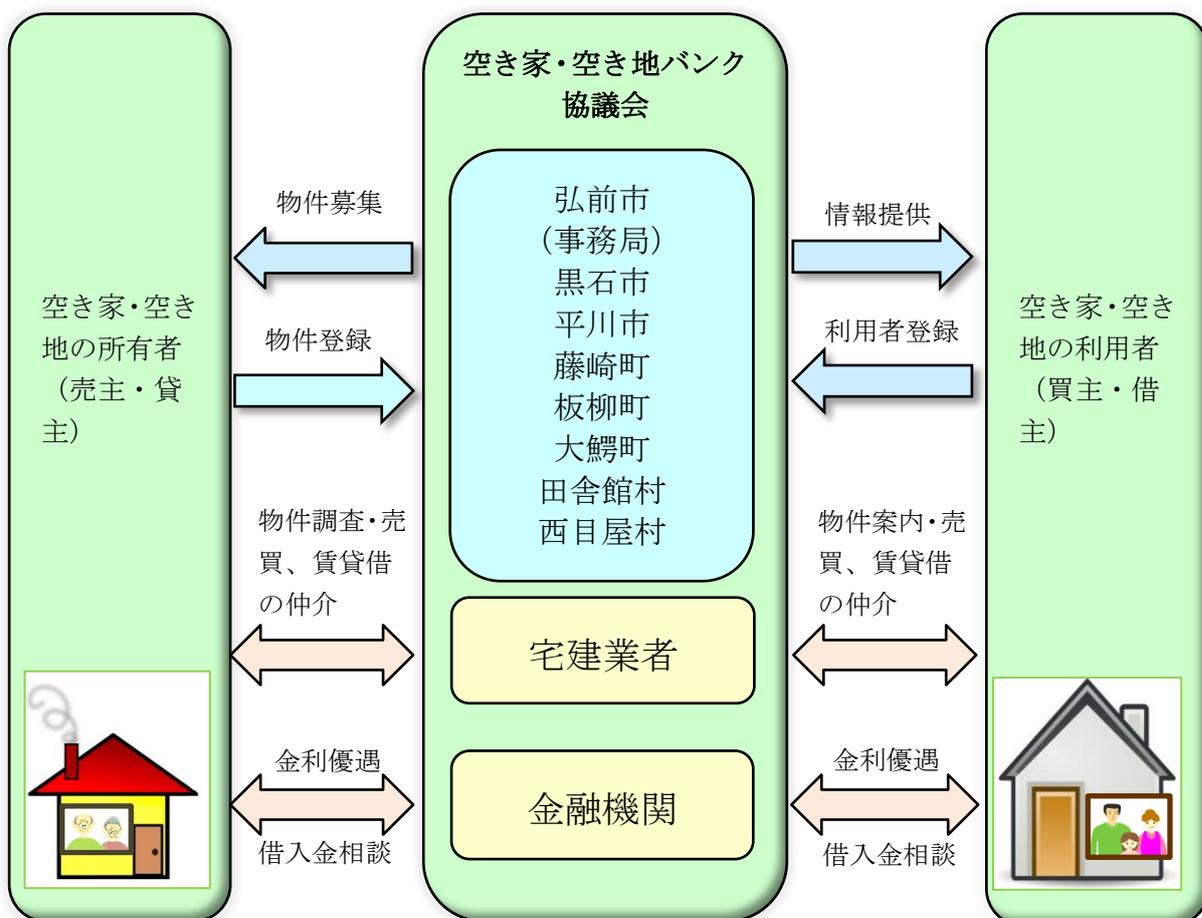
物件登録 （累計）	利用者登録 （累計）	マッチング	
		27年度	28年度
113	60	9	22

2 広域化検討市町村

弘前市、黒石市、平川市、藤崎町、板柳町、大鰐町、田舎館村、西目屋村  
の弘前圏域定住自立圏構成市町村（8市町村）

3 広域化運用開始 平成30年度予定

4 空き家・空き地バンクの仕組み（広域化後）



第2次弘前圏域定住自立圏共生ビジョン重要業績評価指標(KPI)変更一覧表

別紙4

No.	政策分野	No.	事業名	変更前			変更後(変更箇所のみ掲載)		
				基本目標の指標	現状値(調査時点)	目標値(達成年度)	基本目標の指標	現状値(調査時点)	目標値(達成年度)
				KPIの指標			KPIの指標		
1	医療		休日・夜間救急診療体制対応日数	365日(H27年度)	365日(H33年度)				
		1	休日及び夜間における一次救急診療事業	弘前市急患診療所の運営	365日(H27年度)	365日(H33年度)			
				休日在宅医診療の実施	実施(H27年度)	継続実施(H33年度)			
2		休日及び夜間における二次救急診療事業	二次救急医療体制の維持	365日(H27年度)	365日(H33年度)				
2	福祉		一時預かり事業・休日保育事業・地域子育て支援拠点事業延べ実施施設数	67施設(H27年度)	70施設(H33年度)	延べ利用児童数	32,403人(H27年度)	33,000人(H33年度)	
		3	特別保育事業	延べ利用児童数(総数)	32,403人(H27年度)	33,000人(H33年度)	一時預かり事業・休日保育事業・地域子育て支援拠点事業延べ実施施設数	67施設(H27年度)	70施設(H33年度)
				延べ利用児童数(弘前市を除く構成市町村)	997人(H27年度)	1,100人(H33年度)	削除	削除	削除
3	教育		観光客入込数 ※構成市町村の文化財庭園及び重伝建地区への観光客入込数	45,110人(H27年度)	56,000人(H33年度)				
		4	大石武学流庭園調査・活用事業	圏域ブランド候補庭園調査数(累計)	3件(H27年度)	15件(H30年度)			
				圏域ブランド庭園数	0件(H27年度)	15件(H31年度)			
				公開文化財庭園入園者数	13,262人(H27年度)	16,000人(H31年度)			
		5	重要伝統的建造物群保存地区修理修景等及び活用事業	年間修理修景事業件数(下限)	2件(H27年度)	2件(H33年度)	削除	削除	削除
				公開施設の観光客入込数	31,848人(H27年度)	40,000人(H33年度)			
4	産業振興		商談成約件数	34件(H27年度)	40件(H33年度)				
			企業誘致件数(累計)	2件(H27年度)	5件(H33年度)				
			ニホンザルによる農作物への被害金額	7,706千円(H27年度)	6,700千円(H33年度)				
		6	農商工連携・6次産業化促進事業	展示商談会での商談件数	149件(H27年度)	180件(H33年度)			
		7	企業誘致圏域連携事業	ガイドブック配付部数	200部(H27年度)	300部(H33年度)	訪問企業社数	13社(H27年度)	15社(H33年度)
		8	農作物猿害防止対策事業	ニホンザルの捕獲数	86頭(H27年度)	105頭(H33年度)			
5	観光振興		弘前圏域定住自立圏観光消費額(推計値)	32,829百万円(H27年度)	39,395百万円(H32年度)				
		9	広域観光商品化情報発信事業	弘前圏域定住自立圏観光入込客数	7,467千人(H27年度)	7,840千人(H32年度)			
6	地域防災		防災に関する地域連携の強化	十分に行われていない(H28年度)	連携強化による防災力向上(H33年度)				
		10	広域災害に対応することができる備蓄拠点の整備	広域備蓄計画等の策定	未策定(H28年度)	策定完了(H30年度)			
				物資整備	整備開始(H31年度)	整備完了(H33年度)			
		11	8市町村合同防災訓練	広域防災訓練の実施	0件(H28年度)	1件(H31年度)			
		12	8市町村防災担当職員合同研修会						

第2次弘前圏域定住自立圏共生ビジョン重要業績評価指標(KPI)変更一覧表

別紙4

No.	政策分野	No.	事業名	変更前			変更後(変更箇所のみ掲載)		
				基本目標の指標	現状値(調査時点)	目標値(達成年度)	基本目標の指標	現状値(調査時点)	目標値(達成年度)
				KPI の指標			KPI の指標		
7	環境		リサイクル率	12.5%(H25年度)	14%(H33年度)				
		13	し尿・浄化槽汚泥等共同処理事業	し尿等処理量	47,877,816 kg(H27年度)	45,700,000 kg(H33年度)			
		14	カラス対策連携事業	ごみ集積ボックス設置数	2,615基(H27年度)	2,700基(H33年度)	ごみ集積ボックス設置数	3,165基(H27年度)	3,364基(H33年度)
				協定締結自治体数	1自治体(H27年度)	3自治体(H33年度)	協定締結自治体数	2自治体(H27年度)	4自治体(H33年度)
15	使用済小型家電リサイクル事業	使用済小型家電回収量	19,256kg(H27年度)	40,000kg(H33年度)					
8	その他		相談対応不能件数	0件(H27年度)	0件(H33年度)				
		16	弘前圏域消費生活相談事業	消費生活相談件数	1,373件(H27年度)	1,400件(H33年度)			
9	地域公共交通		持続可能なモビリティの確保	交通手段確保の継続	交通手段確保の継続	圏域公共交通分担率	6.8%(H22年度)	7.4%(H32年度)	
		17	公共交通ネットワークの再構築及び利用促進活動の実施	バス利用者数	3,114千人(H26.10~H27.9)	3,114千人(H32.10~H33.9)			
				弘南鉄道利用者数	1,770千人(H27年度)	1,770千人(H33年度)			
10	地域内外の住民との交流・移住促進		カップリング件数	54件(H27年度)	570件(H29~33年度)	カップル成立件数	54件(H27年度)	570件(H29~33年度)	
		18	婚活支援事業	成婚件数	0件(H27年度)	38件(H29~33年度)			
11	圏域市町村の職員等の交流		研修実施回数	4回(H28年度)	4回(H33年度)				
		19	圏域職員合同研修事業	全受講者人数	153人(H28年度)	160人(H33年度)			
				構成市町村受講者割合	34%(H28年度)	40%(H33年度)			
12	行政事務の効率化		電算システムのクラウド化	4市町村(H27年度)	8市町村(H33年度)				
		20	電算システム共同利用促進事業	電算システム稼働率	99.9%(H27年度)	99.5%以上(H33年度)			